



NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。

ニュースレター アイデア

2016

6月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



- | | | |
|---|---------|------------------------|
| 2 | 二言三言 | 学童「くまの子クラブ」の運営と地域づくり |
| 4 | 団体紹介 | 室根町婦人協議会(室根) |
| 5 | 地域紹介 | 一関 真滝 15 区(一関) |
| 6 | 企業紹介 | 東磐交通株式会社(東山) |
| 7 | センターの〇〇 | 今回の特集は? こどすも田植えはじまったよ~ |

学童「くまの子クラブ」の運営と地域づくり

対談者 放課後児童クラブくまの子クラブ 運営委員長 熊谷 まき子 さん
聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹

市内初の民設民営の放課後児童クラブ

【小野寺】まずは、くまの子クラブを始めた背景などをお聞かせください。

【熊谷】民設で学童を始めて8年目になります。一関では大きな学校にしか学童がなく、すべて公設公営で、民設民営の学童がなかったんですよね。それが、平成22年からは40人の少人数体制になるということで、市では新しい学童を置くために場所や人を探していたようです。

【小野寺】南小にはひまわりクラブがありますよね。

【熊谷】ええ。当時、南小でも探していたらしいんです。私はその時一関幼稚園で働いてたんですが、60歳を過ぎ退職を考えていました。すると、ひまわりクラブの枠に入れないうちのお母さんから「退職するなら何とか面倒を見てくれないでしょうか」と相談を受け、引き受けることにしたんです。

【小野寺】何人くらいの子を引き受けたんですか？



運営委員長
熊谷まき子さん

【熊谷】3人です。それくらいなら私の家でもお世話できるかな…と思いましたが、でも、事故があったりするとマズイと思い、一応、市役所に行き了解をもらいました。そしたらその後、9～10月頃に市から連絡が来て、「どこか空いてる貸家を探して、そこで30人見てくださいませんか」と言われて、「30人なんて私一人じゃ見れないよ」と言ったら「いや、スタッフを集めて。来年の4月1日に開所します」と。

【小野寺】ここは探して見つけた物件なんですか？

【熊谷】そうです。かなり古い建物だったので、市が700万円の改築費を出してくれました。それで備品も揃えました。スタッフは3人、月3万円の給与から始めました。

【小野寺】すごいですね。今は30人くらいの子ども

さんが、こちらの学童に通っているんですか？

【熊谷】今は60人くらいですよ。

【小野寺】60人！？倍になってますね。

【熊谷】弟と一緒に姉ちゃんも入ってきたりとかで6年生まで預かることになり、全体で60人くらいになりました。うちでは、お母さんの都合で夜8時まで子どもを預かってまして。

【小野寺】そこが、すごいなと思ったところなんです。

【熊谷】ちょこっとした夕ご飯も用意しているので、6年間うちの夕ご飯を食べて育った子もいるんですよ。あとは、月何回かお母さんが遅番の時だけ預かるという時もある、今でも8時までというのは必要ですね。ところが地域の方の中には、「朝7時に学校に来て、夜8時まで外に出しているなんて虐待だ」なんて言う方もいるんですよ。いやいや、虐待って言うけど、5～6時に家に帰って、ずっと一人でいさせたらそれこそ虐待じゃんって思うんですよ。

【小野寺】逆に、その時に事故があったりとか、何かあった時が怖いですよ。

【熊谷】というように、私とは考えが違う方もいるので、くまの子クラブの運営委員会は区長さんなどを入れず、「父母の会」として立ち上げることにしました。私は運営委員長をやっていますが、あとは父母の会の会長さんたちに運営委員をやってもらっています。

【小野寺】そうすると、お父さんお母さんのニーズに合わせて運営できるんですね。

夕ご飯の提供と、夜8時までのお預かり

【小野寺】くまの子クラブさんが夜8時までお子さんを預かりご飯も出しているというお話はとても衝撃でした。

【熊谷】結局ね、一関市が合併してすごく広くなったじゃないですか。お母さん達が〇〇小だとか、〇〇病院の看護師とかだと、家に帰る時間が遅くなるわけですよ。

【小野寺】8時にお子さんを引き取り、家に帰ってからご飯をつくるのは大変だし、夜遅い時間に夕ご飯を食べさせるのもかわいそうですよね。地域では子どもの数が減り、学校も統合しているので、元の小学校単位での学童がなくて困っている地域が多いわけですよ。すると、「地域で子ども達を世話する拠点をつく

っていこう」となるんですが、発想が、どちらかという行政頼りになってしまうと感じています。

【熊谷】市に「やってもらおう」じゃダメ！自分達で動き出さないよ。

【小野寺】そう思ったなら、空き家でも何でも借りて、自分達で何人でもいいから受け入れるということが大事ですよ。

【熊谷】そうそう、そこからですよ。

【小野寺】公設公営と民設民営の大きな違いは発想と視点、フットワークの軽さで、より利用者目線の運営ができることですよ。さらに卒業生にとっては、戻ってくる場所にもなりますよね。

子育てに優しくない地域

【小野寺】熊谷さんの目から見て、率直に地域の課題はどう感じていますか？

【熊谷】「子育てに優しく」って言いますけども、優しくないですね。遊んでると「うるさい」って怒るし、「花壇に入るな」って言われるし。子育て支援とか、地域に子どもが少ないとか言うけど、周りの大人が子どもを少なくしてない？って思うんです。大人は自分の世界を守っちゃってるから。せっかく60人いる子ども達が遊んでいるんだから、一緒に遊んでくれたっていいし。

【小野寺】そうですね。世代間交流がっていう割には子どもと関わらないんですもんね（笑）

【熊谷】最近の年寄りも、子どもと遊んでくれないですもん。それに、親はすごく大変なんだよって言うのが見えてない。ここの近所に住むお婆さんなんかは、夜8時までくまの子の灯りがついてて子どもの声が聞こえているのは安心するって言ってくれますよ。だから、花壇が荒らされたとか、子供の騒ぐ声がうるさいっていう人もいますが、それはそれだねって。



親を巻き込む仕組み作り

【小野寺】市では立ち上げ以降何か…？

【熊谷】市から運営補助費は受け取っていますが、あとは任せられていますから。

【小野寺】市のお金以外も入れてもいいんですか？

【熊谷】そうそう。学童の利用料金は市内は一律7,000円に決まっています、そのほかにおやつ代として2,000円をいただいています。始業式や終業式とか、何かある時にはおやつ代を使ってお弁当を出してるんですよ。

お母さんがお弁当をつくれないうちもあるんで、料金が高くて出してもいいと言われて。

そのほかにも月に何回かはお弁当を出しています。子ども達がおやつをつくったりもしますよ。味噌汁に使うお味噌は、子ども達が材料をこねたりして全部手作りします。それがわかると、お母さん達がお米やお野菜を差し入れてくれたりするわけですよ。

【小野寺】買って食べる料理だけじゃなくて、実際に自分達が食べるものを自分達で作るといのはよい経験になりますね。味噌作りなんて今はまずすることないし、スーパーでしか見たことがないですよ。

【熊谷】私達が作り方を教えて、皆でつくるんです。すると「この味噌汁おいしい！おかわり！」って言うんですよ。

【小野寺】いやー、すごいですね。



お味噌作りを行う子ども達

【熊谷】やっぱり一緒にやっつかないと。自分の子どもなんだから自分で手をかけないとね。

【小野寺】基本的なスタンスはそこなんですよね。学童があろうが、親は自分の子どもを自分でちゃんと面倒見る責任があると。預けたらいいんだじゃなくて、預けたところにもっとよくしてもらおうと思う気持ちをちゃんとぶつけていかなければよい運営にはならない。

【熊谷】本当に試行錯誤ですよ。毎年親の考えが違ったり、若くなってきているし。それぞれ子どもも違ったり親も違ったり。最初は3人のスタッフでわからないままスタートしたんですから。

【小野寺】でも、わからなくてもちゃんとニーズがあって、応えられているっていうのはすごいですよ。

【熊谷】くまの子クラブは、放課後、家に誰もいなくて行き場所がない、どうしようっていう子の相談の受け口になればなと思います。6年間ここでご飯食べて育て、中学に進学してから来てくれる子もいますから。

【小野寺】いや、本当にそういう動きって必要だと思いますよ、これからも。今回の記事を通してくまの子クラブさんの活動をもっと知ってもらいたいですし、気持ちがあるなら地域でやってみようって思ってもらえたらなと思います。

基本情報

【放課後児童クラブ くまの子クラブ】

〒029-0602 一関市台町 3-13

TEL/FAX 0191-26-6331

ブログ：<http://blog.goo.ne.jp/kumanoko2009>

団体紹介



会長 岩渕 和子さん

～基本情報～

- ◆会 長：岩渕 和子さん
- ◆連絡先：〒029-1202
一関市室根町矢越字七日市
53-2
- ◆電 話：0191-64-3243

原点に戻りつつ、新たな役割の構築へ

婦人会の意味合いとは

「婦人会の衰退＝世の中が良くなったということじゃないかしら」そう冷静に現状を見つめるのは室根町婦人協議会会長の岩渕和子さん。各地で婦人会活動の存続に関する議論が聞こえてきますが、室根でも婦人協議会は縮小の一途を辿っています。かつては自治会ごとに婦人部が設置され、その上に地区ごとの婦人会、さらにその上部が室根町婦人協議会だったのですが、下部組織はほぼ全てが解散し、現在は個人会員と、唯一残っている屋中自治会婦人部との合計 34 名での活動です。

「地域の中で女性の権利や立場、発言の機会が広まってきたから、婦人会の意味合いは薄くなってきたんじゃないかしら。でも婦人会が受け皿になっているものがたくさんあるから、単純になくすわけにもいかないのよね」奉仕活動やボランティア活動のほか、地域の女性代表として様々な会議の構成団体とされる婦人協議会。いわゆる‘充て職’にも「忙しいけど、世間を知るきっかけになり、楽しいし勉強になる」と、和子さんは積極的な姿勢を見せます。

家庭を守り、地域を守る

室根町婦人協議会の主な活動に、孝養ハイツ(特養)周辺の草取りや、地域の子どもの見守り活動として、月1回のあいさつ運動があげられます。あいさつ運動では室根東小、西小、室根中学校の3校を順番に回り、民生児童委員とともに子どもたちの登校時に声を掛け合います。孝養ハイツの草取りには会員ではない若い女性も参加してくれるのだとか。「孝養ハイツは室根にとって貴重なもの。いずれ自分や自分の家族がお世話になると考え、みんなで守っていくことが大事」

と、活動の意義を笑顔で語ります。

また、毎年開催している講習会では、当いちのせき市民活動センターのセンター長から「話し合いのルール」を学んだことも。「和気あいあいと話ができる場をつくることも婦人会の目的の1つ。その際に話し合いのルールは重要。話し合いのルールは家庭にも通用するし、大好評だったの」実際に総会の時にルールを適用させたり、会の雰囲気づくりにも力を入れているそうです。

自分たちにしかできない役割を

室根の中には各行政区ごとに設置された「女性学級」や保健婦もありますが、自主的な組織としての婦人協議会にしかできない役割があるのではないかと和子さんは考えています。「災害時など、女性にしか気づけない、分からない役割があって、婦人協議会はそうした気づきを発信したり、解決したりする役割を担っていくべきじゃないかしら」と、婦人協議会の今後の役割として社会的な活動も視野に入れます。さらに「婦人会は女性が勉強する機会を提供する場」として、和子さんが参加した会議の様子などは、役員会の席や、行事の挨拶などを通して、会員にもしっかり共有。婦人協議会の活動を「自分たちで自分たちが暮らしやすい世の中にしていくための活動」とし、組織の存続にこだわるのではなく、地域の中で女性の立場、権利が守られ、より広げていくために、積極的に地域活動との関わりを持つようとしている姿勢に、婦人会の今後のあり方のヒントをいただいた気がします。

3年連続で開催している話し合いのルールを学ぶワークショップの様子



地域紹介



区 長 鈴木 勲さん (右)
会館部長 大倉 秀章さん (左)

～基本情報～

- ◆区長：鈴木 勲さん（2期4年目）
- ◆一ノ関駅から国道342号線を1kmほど南下した所にある真滝15区。南小学校を擁し吸川が流れるこの地区には395世帯1,035人が暮らしています。

住民が笑顔で暮らせる地域に

黙とうで始まる総会

「…」1分間の静寂。真滝15区の総会は昨年度逝去された民区住民を追悼する黙とうから始まります。総会資料の経過報告には故人の名前と亡くなった日が記載され、参加者には改めて振り返る機会になります。

真滝15区は南・中・西の3地区に分かれており、副区長2名を置くことで各地区の住民との情報共有や各種行事への参加率を高めています。総会冒頭の黙とうは、こうした住民同士の繋がりの表れとも言えます。

今回は「地域の人たちが笑顔で暮らせる地域にしたい」と話す区長の鈴木さんと、地域の拠点である真滝15区会館（以下会館）を管理する会館部長の大倉さんに、地域の取り組みを伺いました。

それぞれが支える幅広い取り組み

多い年には300人の参加があるという3地区対抗の運動会は真滝15区最大のイベントですが、他にも、会館に隣接する「ふれあい公園みやざわ」の清掃や、地域を流れる吸川の清掃（「吸川をきれいにする会」との連携）といった環境美化活動、自主防災会による防災訓練や交通安全・防犯パトロールなどの安全安心への取り組み、ラダーゲッターやペタンクといったニュースポーツやグラウンドゴルフも盛んです。

会館裏の「ふれあい農園」を利用し、住民同士の世代間交流にも一役買っていた秋の収穫祭が、諸般の事情により昨年で終了したというのは残念ですが、それでも多様な分野の幅広い取り組みは住民参加の選択肢を増やし、民区活動の間口を広げ、関わりや参加者拡大にも繋がっています。

一方で多くの活動に取り組むには、それだけ関わる人の数も必要ですし負担も増えるわけですが、それを

実現できている背景について鈴木さんは「副区長を始め、それぞれの立場で協力してくれる皆さんがいて助けられている」と語ります。

また、「会館部長が掃除も含め丁寧に管理してくれている」という大倉さんへの感謝の言葉を聞き、改めて会館内を見渡すと、綺麗に維持された建物は確かに築約40年とは思えないほど。「いやいや」と謙遜する大倉さんですが、「会館は15区の住民が一人でも参加していれば無料で貸し出している」と、利用しやすい会館運営への配慮の一端を明かしてくれました。

月2回の民区情報紙「こだま」

鈴木さんが前区長から引継ぎ、現在も月2回市広報と一緒に配布（班ごとの回覧）しているのが真滝15区の情報紙「こだま」です。A4片面ですが、行事予定や報告などの内容を、イラストや時には絵文字も入れて、非常に読みやすくわかりやすい工夫がされています。月1回の会報を定期的に発行するのも大変ですが月2回となればなおのこと。頭が下がります。

また、転入者には総会資料とゴミカレンダー、班長などの情報を提供しており、ここにも「笑顔で暮らせる地域に」という想いが垣間見られます。

「課題がないわけではないがみんなで協力して解決できたときが一番の喜び」という鈴木さんは、「と言っても常に課題が解決できるわけでもない。それでも話を聞きながら出来ることをやり、進捗を共有する。『寿命は天命、健康は努力』が持論なので、健康づくりに繋がる活動も充実させたい」と抱負も語ってくれました。



昨年の「ふれあい農園収穫祭」は大勢の参加者で賑わいました。

企業紹介



取締役営業部長
足利 勲さん

～基本情報～

- ◆代表取締役社長:菅原 徳平さん
- ◆連絡先:〒029-0302
一関市東山町長坂字町 410
- ◆電話:0191-47-3435
- ◆F A X:0191-47-4025
- ◆U R L:<http://www.toban-group.co.jp/index.html>

地域の足として新しいアイデアに取り組み、充実したサービスを

時代が織りなす様々な変化

観光バス、スクールバス、路線バス、身近なタクシー等地域住民の足として日々運行している東磐交通株式会社。自社所有のバスには東山町の観光をPRすべく猊鼻溪舟下りのアートが描かれています。

昭和6年から郷土物流の第一陣を築いた同社前身の千厩貨物自動車有限会社は戦時中の統制令に従い両磐貨物自動車(株)に合併した後、昭和30年に分離し東磐運送(株)を設立。昭和42年にトラック部門として東山営業所開設を経て、昭和54年、旅客専門・旅行業の東磐交通(株)を設立しました。

「当時はね、東山町内や千厩町内に大きな企業があり、地域企業と契約して従業員の送迎を行っていたんですよ」と振り返るのは同社取締役営業部長の足利勲さん。「今のように一家に何台も車がある時代ではなかったし、車が家庭にある方が珍しくくらいでしたら、送迎バスは大いに活躍した時代です」と語り、現在は企業送迎の契約はなく「それが時代ですよ」と続けます。

新しいニーズへ対応するための取り組み

昭和60年頃から新たな取り組みとして“乗合バス”の運行を始めた同社。背景には地域の人口減少と家庭用自動車のブームがありました。「それまで、町内も県交通バスが通っていたのですが、利用者の減少で運行と管理が難しくなり、我々が自治体より代替バス運行を委託され、スクールバスや福祉バスの役割も兼ねて地域密着型の足となりました。確かに昔と比べれば断然利用者は少ないです。しかし、移動手段が限られている高齢者や学生が安心して地域で暮らすためには、要望や意見を聞きながら新しい取り組みが必要となってきます」と語ります。

平成21年からは、東山町と大東町を結ぶ猿沢線で

デマンド方式(予約応答型タクシー)の運行を開始。県交通時代の停留所から、住民の意見を参考にバス停を増やし住民の使い勝手がよい環境づくりを行ないました。

また、県内でも唯一というリフト付き福祉大型バスは、障がいを持った方々や病気の治療中で車いすを使用している方々が安心してそのまま移動ができる内装(標準的な車いすの場合6名前後の乗車が可能)になっており、主に地元の支援学校・福祉施設・団体等の校外学習や遠足などにも利活用されています。「ベットで寝たままでもそのままバスに乗れます。以前、施設から一度も移動したことがないという方を近くの公園までバスを走らせました。その時のお客様の笑顔。本当に忘れられませんね」と振り返ります。「確かに大型バスですから、需要あるなしに関わらず管理費等々かかるわけです。しかし、私たちが向き合っているのは人と人。『楽しい旅だったよ』『出掛けられて良かったよ』『移動ができて助かったよ』そんな皆さんの言葉に支えられています」と目を細めます。

安全指導の徹底

同社では、乗務員安全教育活動計画に従いお客様が安心して利用できるよう安全講習を行っています。さらに、業務内だけではなく従業員はプライベートも含めて運転に対し優良であることから、県警本部より「優良安全運転事業所」の金賞にも輝きました。



地域の足の確保、人にやさしい路線バスのお手伝い

今回の特集は？ こどもも田植えはじまったよ～

センターの 〇〇!



スタッフ千葉家では田植え前にお神酒、昆布（今回はわかめ）赤飯をお供えし、五穀豊穡を祈ります

～今月の特集～

一関の主産業である米づくり。最近では農業の機械化や、農家の高齢化、後継者不足等の背景もあり、ほ場整備した広い田んぼが目立ちます。そんな中、昔ながらの景観を生かし手作業で米作りを行う棚田や昔ながらの田植え風景を特集でご紹介したいと思います。

山吹棚田

日本の棚田百選※にも選ばれている一関市大東町大原の「山吹棚田」。中世の大原千葉氏の居城である「山吹城」があった地域で、およそ2haの山の斜面に約40枚の水田が段々に並んでいます。百選中最北の棚田で霊峰室根山が望まれ季節ごとの花々や風景、棚田を取り囲むように道ができていますので、色々な角度から棚田を楽しむことができます。傾斜がきつ



代掻きを終え田植えの準備が整いました



奥に見えるのは室根山。素晴らしい景観です

く、田んぼの法面は一つ一つ長く棚田特有の形を見せています。農地の管理は山吹集落の農家が協力し合って農作を行っています。

※1999年7月農林水産省によって、日本全国の117市町村、134地区の棚田が「日本の棚田百選」に認定された



金山棚田

一関市舞川の唐ノ子地区にある金山棚田は、山間地の田んぼ整備にほとんど手を掛けず、数百枚の水田が密集した昔からの地形のままで稲作をしています。

耕作面積は42a(平地の田んぼ換算ほぼ一枚の圃場)で、最小面積は畳二枚(一坪)であると説明看板に書かれています。4月24日には、田んぼの水漏れなどを防ぐために、畦にくわで泥を丁寧に塗り固める畦塗り作業が行われ、田植えの準備を整えました。江戸時代後期に開拓されたこの棚田は、地元の金山さんが管理していました。今年からは地元有志で結成した「金山棚田を守る会」の会員が協力し作業に取り組んでいます。



上からの眺めは絶景です



5月15日は絶好の田植え日和でした

骨寺村荘園

一関市巖美町の本寺地区は、山々に囲まれ、曲がりくねった水路や不整形な水田が広がり、イグネに守られた家々が点在。神社や小さな祠が要所にまつられ、自然を巧みに利用して築き上げてきた日本の原風景が現在も見渡せます。伝統的な農村の景観が維持されている貴重な小区画水田を用い、毎年骨寺村荘園お田植え体験交流会が開催されています。



希望者は伝統衣装を着て参加できます



小区画水田に夕陽が映り、とても美しい景色です

参加者は、荘園米オーナーをはじめ、本寺小中学校、岩手大学、関係機関、地元住民など合わせて200名以上の方が昔ながらの手植えを行い交流を深め地域の歴史文化に触れています。

次回の特集予告...
夏は目前! ~一関の涼を求めて~
を特集します。お楽しみに!!

おしらせ

一関 語り部の会

一関地方に伝わる民話や伝説を地元
の言葉で語り継いでいる「いわいの里ガイド
の会」の語り部が、素朴な語り口で民話の
数々をご紹介します。歴史ある沼田家武
家住宅で、地域に伝わるお話を耳を傾け
てみませんか。

【日時】平成 28 年 6 月 10 日(金)10:00 開演
【場所】旧沼田家武家住宅(一関市田村町 2-18)
【料金】無料
【問合せ】旧沼田家武家住宅
【電話】0191-21-8188

一関 ホンキの就職セミナー

自分ができること・やりたいことを見つめ
直すことにより自分を知り、応募する仕事
を探すプログラムです。就活のための自己
分析・自己理解、志望動機等を準備し、
実際に応募します。参加者がお互いに応
援し、仲間と頑張れる就活セミナーです。

【日時】平成 28 年 6 月 14 日(火)、17 日(金)、
21 日(火)、23 日(木)12:30~17:00
【場所】いちのせき若者サポートステーション
【料金】無料
【問合せ】場所と同じ(0191-48-4467)

一関 自治会長サミット

一関市の地域づくりにおける自治会長の役
割を、まちづくりと地域福祉の視点から学び、
自治会活動や困りごとを共有するサミットを
開催します。自治会長(または準ずる役職
員)さんが対象です。2日間のうち、希望する
日を選び 6/7 までにお申し込み下さい。

【日時】平成 28 年 6 月 17 日(金)13:30~16:30
6 月 18 日(土) 9:00~12:00
【場所】なのはなプラザ4階共同会議室
【問合せ】いちのせき市民活動センターせんまやサテライト
【電話】0191-48-3735

**千厩 ミュージック・パーティー〜
スペシャルバージョン**

3 回目のコンサートとなる今回は、奥玉
出身のオルガン奏者千葉祐佳さん、一関
出身のテノール鈴木秀和さん、ヴァイオリ
ン千葉裕之さん、ソプラノ佐藤篤子さん
によるゴージャスな舞台をお送りします。チケ
ット取扱:マリアージュ、カミヤ(一関大町)

【日時】平成 28 年 6 月 19 日(日)13:30 開演
【場所】マリアージュ
【料金】1,500 円(全席自由)
小学生以下無料
【問合せ】千葉祐佳(090-9635-5820)

一関 楽・ルチェのお茶会

楽・ルチェでは、「自分らしさ」を引き出
すメイク、ネイルなどを行い、お客様が外
側・内側から元気になれる・素敵になれる
サロンを目指しています。毎月のお茶会
ではお店を開放し、どなたでも出入りできる
楽しい空間をご用意しています。

【日時】平成 28 年 6 月 20 日(月)10:00~12:00
【場所】楽・ルチェ(一関市山目中野 75-2-C)
【料金】無料
【問合せ】場所と同じ
【電話】090-3980-4954

一関 まちの保健室

岩手県看護協会では、毎月第一土曜
日(8月は28日開催)に血圧やBMI測
定、体や心に関する悩みを無料でお聞き
するまちの保健室を開催します。保健師、
助産師、看護師OBのスタッフが優しくお
応えしますので、お気軽にご利用ください。

【日時】平成 28 年 7 月 2 日(土)13:30~15:30
【場所】いちのせき市民活動センター内
【料金】無料
【問合せ】いちのせき市民活動センター
【電話】0191-26-6400

一関 ヨソモノさんいらっしゃい

ほかの市町村から一関に転入、Uターン
してきた方で、困っていることやわからない
こと、出会いたい人や団体はいませんか？
一関の情報通をゲストスピーカーとして
迎え、知りたい情報にお答えします。ヨソ
モノさん談義で盛り上がりましょう！

【日時】平成 28 年 7 月 2 日(土) 9:58~12:00
【場所】なのはなプラザ4階共同会議室
【料金】1,000 円
【問合せ】いちのせき市民活動センター
【電話】0191-26-6400

一関 新規キャリアサポーター募集

キャリア教育支援として、これまで培って
こられた技能・技術(工学系のみならず広
義で)などの仕事の体験や経験を、ボラ
ティアで子どもたち(小・中・高校生)や若
者に伝えるキャリアサポーターを募集しま
す。活動できる日時や時間帯に合わせて
活動でき、若者との交流や様々な職業の
方との情報交換の場にもご活用いただけ
ます。

【問合せ】ジョブカフェ一関
【電話】0191-26-3910

一関 お試し移住 in いちのせき

一関に移住を考えている方、一関の生
活を丸ごと体験できるお試し移住をして
みませんか？ 敵美の一棟貸切ゲストハウス
「山笑亭」に滞在。農林業体験や市内の空
き家情報をご用意しています。予約は下記
電話番号まで。

【期間】2泊~7泊まで選べます。
【体験場所】一関市敵美町字外谷地
【料金】体験料は下記まで問い合わせください。
【問合せ】いちのせきニューツーリズム協議会
【電話】0191-82-3111

今月の表紙



一関図書館で管理されているこの蒸気機関車C
58-103号は、昭和13年に大阪の汽笛会社で造
られ、昭和25年から18年間大船渡線で活躍し、
地方の産業経済文化の発展に大きな役割を果た
しました。今も美しい姿のまま保管されてお
りますので、ぜひ一度皆さんの目で直接ご覧ください。

Q & A あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q 助成金はどれも全額補助じゃないの？

A 助成金により、全額補助のものもあれば上限(下限)が設けられて
いるもの、対象経費の〇割までといった条件があるものもあります。
120万円の事業で3分の2補助であれば、40万円の自己資金が
必要ということになります。見落としを防ぐために募集要項をよく
読み、無理のない予算計画を立てましょう。